

2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [東浦町立緒川小学校] 担当教諭名 [木全浩子・村上浩義] (6年1・2組 62名)

交流相手国 [中国]

海外学校名 [Jinhua Binhong Primary School] 担当教諭名 [Zhao Xia]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	「アートマイルでつながろう」	22
	社会	「日本とつながりの深い国々」	6

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	「世界の人とのつながりを大切に、夢をもって未来へはばたこう」
絵に込めたメッセージ	日本を象徴する美しい自然や、伝統的な文化から現代の文化まで幅広く描いた。日本のことを理解してもらうとともに、中国の友達とつながり、お互いが手を取り合っ て未来の関係を築いていきたいという願いを込めて描いた。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝えようとする活動を通して、自国の文化や学校のよさについて考える機会となった。 相手の国の様子や文化に興味をもち、交流してつながりをもとうとする気持ちが高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 郵便物がなかなか届かないなど、相手校と連絡を取ることが難しく、タイムリーな交流ができなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 初めは、手紙を送っても返事が届かないことで、交流している実感が薄かったが、相手の国の事情を理解しようとしていた。完成した壁画を見てからは、自分たちの思いを相手の子供たちが受け止めて描いてくれたことが分かり、気持ちがつながり合ったことに喜びを感じていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めは、自由に意見交換ができるか心配した。なかなか送った手紙への返事がないまま、壁画のデザインの話を進めることとなった。しかし、完成した壁画からは、両国の子供たちがつながった感じがした。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月	<ul style="list-style-type: none"> 世界の子どもたちとつながる方法を考え、話し合う。 一人一枚ずつの自己紹介カードとビデオレターを作り、郵送する。 	<p>相手との「つながり」を目標に掲げることを話し合いで決めた。</p> <p>相手に自分たちのことを伝える活動を楽しんでいた。</p>	総合2
テーマ学習	6月～10月	<ul style="list-style-type: none"> リトルワールドにてさまざまな国の特色を知り、夏休みに各自で外国の様子を調べる。 本やインターネット等で中国について調べる。 修学旅行の事前調べをする。 	<p>外国の建築物、食事、民族衣装などから、さまざまな国の衣食住に興味をもつことができた。</p> <p>中国の生活を知り、日本の生活との違いを感じていた。</p>	総合8 社会6
構図決定	11月	<ul style="list-style-type: none"> 共同壁画制作に向け、テーマ案を学年全体に募集する。全体での話し合いや実行委員で絞り込む。下描きをフォーラムで提案する。 	<p>「日本の文化を知らせたい」「日本と中国とのつながりを表現したい」という思いを強くもち、進んで提案、意見を聞こうとした。</p>	総合6
壁画制作	11月	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員が下絵や配色を検討し、色塗りを指示する。 グループに分かれ、全員で色塗りをする。 	<p>実行委員の指示に忠実に、丁寧に色塗りを行った。担当場所の色塗りを仕上げていくごとに、学年全員のつながりの深まりを感じていた。</p>	総合4
鑑賞・振り返り	3月	<ul style="list-style-type: none"> 作品鑑賞会を開く。 作品とともに記念撮影をする。 卒業式の式場で展示する。 	<p>一つの絵として完成したのを見て、相手とのつながりを感じていた。</p> <p>式場への掲示で、多くの人に見てもらえることを喜んだ。</p>	総合2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	修学旅行の事前の調べ学習や、事後の学習のまとめの姿から、日本の伝統文化を誇りに思う気持ちが感じられた。
異文化の理解	B	3	外国のことを資料等で調べることはできたが、中国については深い理解はできなかった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	3	自分のことを伝えようと手紙を書いた。英語を使おうとする子もみられたが、中国の子たちと直接的なつながりがもてなかった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	4	外国のことや修学旅行の事前の調べ学習などを進んで行うことができた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	4	学年全員や実行委員、グループでの活動などで、話し合いを充実させることができた。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	10グループに役割を分担し、絵の具の準備、絵の制作、片付けなどをそれぞれのグループが主体的に行っていた。
学習を追究する意欲	A	4	中国の子たちからの返事や、どんな絵を描いてくれるのかなどを楽しみにしていた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	5	日本の伝統文化と現代文化の両方を組み合わせたり、二人の子が手をつないでつながりを表現したりするなど、話し合いながら構図を決めた。
作品を鑑賞する力	B	4	自分たちの思いをくみ取り、中国の子たちが描いてくれたことを実感し、一つの作品に仕上がったことに感動を覚えた。